

# 2016年公開セミナー 第2回(8/30開催)

概要と報告

2016.9.22 蜂巢 毅

## 1. 講演テーマ 「高齢者社会における巨大災害問題」

## 2. 講師 北濱 昭夫

3. 略歴 : 1966年、東京大学医学部卒業、国立がんセンター外科を経て、1972年渡米、ルイジアナ州チューレン大学でレジデント終了後、同大学外科、生理学教室勤務、チューレン大学医学部臨床外科教授、独協医科大学医学部特任教授を経て、現在、社会医療法人財団 恵互会 大船中央病院理事長兼病院長。独協医科大学医学部特任教授、三井記念病院消化器外科顧問を兼任。

4. 概要 (詳細は、掲載されている、進 哲美会員撮影、山崎和男会員編集の動画【1時間50分】を参照ください。)

2005年8月に、米国ニューオリンズ市に襲来したハリケーン「カトリーナ」について、被害状況と災害直後にしなければならない対応策、について多くの写真とともに講演。(台風10号の影響で、参加予定者の中から多くの欠席者が出ることを懸念しましたが、それもなく、幸いでした。)

### ・災害直後の対応

- (1) 人名救助、救出作業
- (2) 自治体職員の参集
- (3) 二次災害対策
- (4) 災害医療
- (5) 被災情報の収集、解析、共有、発信
- (6) 避難所の開設
- (7) 道路交通の確保
- (8) 情報ネットワークの確保
- (9) Logistics を確保
- (10) 救急医療

### ・主要な具体的キーワード

- (1) 迅速な人、物、情報、財源の確保
- (2) 経済的、法律的、社会的な責任体制の確立  
知事、市長、消防、警察、救急隊、NGO、赤十字、医師会、教会、ボランティア
- (3) 高齢社会の問題  
体力低下⇒ 行動速度の低下 判断力低下⇒ 間違った行動
- (4) 病院からの患者の避難：病院機能上限界があり、事前の準備と訓練が必要
- (5) 感染症：食中毒、レストスピラ症、腸炎ビブリオ、髄膜炎、PTSD、MRSA、破傷風  
対策：予防注射、ワクチン

## (6) 災害時のゴミ処理と焼却

### ・主要な写真

- (1) スーパードーム、ビジネスセンターのハリケーン襲来前後：ほとんど水没、屋根の一部がはがれている。
- (2) 高速道路が寸断され、一部水没。
- (3) 電柱大のおおきな物体が空に舞っている。
- (4) ミシシッピ河の堤防決壊、付近の広範囲が水没。
- (5) 自家用ボートや、スクリューのないジェットホイル駆動のボートが救助に活躍。
- (6) 高速道路の橋げたが水没し、浮力で浮き上がり、高波で流されている。
- (7) 防毒マスクをつけた清掃員、予防注射を受ける救急隊員。
- (8) 屋根裏部屋に閉じ込められた人が、常備の斧で屋根を破り、屋根から脱出
- (9) 老人ホーム、35人の入所者、全員死亡。
- (10) カービン銃を持った大勢の軍隊が、戦車に乗って巡回し、治安の維持。
- (11) 動物愛護協会会員による、ペット動物の救助活動(ボランティア)。
- (12) 大勢の略奪者(スーパーマーケット、商店街、アパート、住宅街)：一部逮捕。

## 5. アンケート集計結果 (芳賀達也 会員)

(エントリー者: 110名 参加者: 75名 アンケート提出者: 42名)

### 1. このセミナーについて

(1) どのようにしてお知りになりましたか？

広報誌を見た：1

広報チラシをみた：7

友人・知人に紹介された：10

前回に引き続き参加した：25

(2) 今まで何回ご参加されましたか？

初めて：9

2-5回：15

6-10回：6

10回以上：9

年代

40代：0

50代：2

60代：11

70代：19

80代：7

## 2. 本日のセミナーについて、ご意見をお聞かせ下さい。

(A) 話が具体的で分かりやすく、直感的に理解できたことに感謝、という趣旨のコメントが多数の人からあった。

他では聞けない話で感謝、具体的で分かりやすかった（同様趣旨 8 人）。

現場の医師の話聞いて大変有意義。

災害時に起こる予想以上に多くのリスクについて知ることが出来た。

ニューオールリンズのカトリーナ台風被害について、懇切にご照会頂き、大変参考になった（同様趣旨 3 人）。

スライド写真、ビデオで見ることが出来感動、具体的で面白かった（同様趣旨 2 人）。

ハリケーンを実体験された医療従事者の方のお話を聞いて有り難かった（同様趣旨 4 人）。

大災害に対してやるべきことがよく分かった。このような啓蒙が必要と感じた（同様趣旨 2 人）。

米国では災害も大規模だが、その後の略奪が起きる国情に驚いた。

沢山の英語表記の対策マニュアルをパワーポイントで見ることが出来た。帰宅して再度検索したい。

(B) この話から、日本での災害対策に思いを致す、というコメントも多数あった。

極めて参考になる話であった。日本における災害時の医療体制を確立するの必要を感じた。

備えの必要さ、自治体の体制確立の必要性、日本での災害にも不安がある。

ニューオリンズでは、社会的な構造的な問題が影を落としているようであったが、日本ではどうなっていくことか。社会的な分断は避けたい。

今日の話資料にまとめられ、ホームページに公開されましたら、自分の行動を考えるための参考にしたい。

Logistics の大切さ、行政に頼れないことを理解、行政為政者がどれほど分かっているか心配。

鎌倉市の災害マニュアルを入手することを考えたい。

市役所職員、警察署、消防署の人が今日の講義を受けたら、とても役に立つ。

アメリカの話に興味深く拝聴した。日本で我々がどのような事態の発生に備えるべきか考えさせられた。対策について市や公共団体がもっと PR すべきと思う。

(C) 一部辛口コメントもありました。

当時の大統領は Nixon ではなく Bush Jr. です。

失望（焦点ボケ）。

写真は少し重かったです。

## 3. セミナーへの要望事項

円覚寺の方々、淡青会の方々へ感謝。

本日と同様の講演会を続けてほしい(同様趣旨 2 人)。

会場への誘導があり、分かった。

各種企業で活躍された方の、リアルで、一般には知られていない、現場での話を聞きたい。

欧米と日本の生活習慣の相違点に関し、個人の経験をベースで紹介して欲しい。 以上